

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	10 月	24 日	記入者	亀田幸英	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	中西
	前田					

文化財名	杉の巨樹群					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1959年(昭和34)2月5日					
所在地	吉野郡十津川村玉置山12 玉置神社境内					
所有者 管理者	玉置神社					
員数						
時代区分						
樹木の場合	(樹木名) 杉				(樹齢)	
案内板の状況	本殿の前方階段の横に奈良県教育委員会の説明板設置					
公開	常時公開					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 (御神木のうち、常立杉は幹の大部分が折れているが、一部の枝は残っている。)					
当面の課題	玉置神社境内を含む玉置山は1979年(昭和54)から県自然環境保全地域であり、自然環境に影響を及ぼす行為には制限が加えられており、当面の課題は見られない。					
今後の課題	神社の南側斜面では、風の通り道に当たるため杉の巨樹の倒木がかなり見られた。有名な常立杉(とこたちすぎ)は根元から約3m辺りから幹の大部分が折れており、残った一部の枝が健気に生きている。巨樹群の倒木問題が今後の課題である。					
その他 (由緒など)	杉は日本特産の杉科の常緑針葉の高木で、各地に自生しているが、広く植林もされている。古代より建築用材として利用されてきたため、全国的に、巨樹・老木は少なくなってきている。この玉置神社境内には杉の巨樹が多数あり、学術的にも価値が高い。(平成10年3月設置の奈良県の説明板より。なお、写真ページの測定値は平成9年のもの)					
コメント	3万平方メートルの玉置神社境内には、永らく聖域として伐採が禁じられていたため、温暖多雨の気候と土壌に恵まれ樹齢3,000年ともいわれる、神代杉(じんだいすぎ)(幹周約8.3m、樹高約20m)を始め杉の常識とかけ離れた、存在感のある巨樹が多数生育している。太古の昔から命を繋いできた巨樹群が、これからも生き続けられるような環境が維持されることを切に願う。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	10 月	24 日	記入者	亀田幸英	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	中西
	前田					

文化財名	杉の巨樹群
------	-------

神代杉(じんだいすぎ)幹周約8.3m・樹高約20m



常立杉(とこたちすぎ)幹周約8.6m・樹高約25m



磐余杉(いわれすぎ)幹周約7.0m・樹高約30m



浦杉(うらすぎ)幹周約7.0m・樹高約28m



大杉(おおすぎ)幹周約8.7m・樹高約40m



奈良県の説明板

